

本科 1 期 7 月度

解答

Z会東大進学教室

高2東大理系数学Ⅲ



Lecture 11 微分法(9) 速度と加速度 - 解答

演習問題 11 – 1

[1] xy 平面上の動点 P が、パラメータ t により次のように与えられるとする。

このとき、 $\frac{dy}{dx}$ を t で表せ。

- (1) $x = t^2 + 1, y = t^3 + t$
 (3) $x = e^t + e^{-t}, y = e^t - e^{-t}$

- (2) $x = -2t^3 + 1, y = 2t - 1$

- (4) $x = \cos 2t, y = \sin 3t$

[2] xy 平面上の動点 P が、パラメータ t により次のように与えられる。

$$x = \cos^3 t, y = \sin^3 t$$

このとき、 $\frac{d^2y}{dx^2}$ を t で表せ。

解答・解説

[1]

(1)

$$\frac{dx}{dt} = 2t, \frac{dy}{dt} = 3t^2 + 1$$

より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{3t^2 + 1}{2t} \quad (\text{答})$$

(2)

$$\frac{dx}{dt} = -6t^2, \frac{dy}{dt} = 2$$

より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{2}{-6t^2} = -\frac{1}{3t^2} \quad (\text{答})$$

(3)

$$\frac{dx}{dt} = e^t - e^{-t}, \frac{dy}{dt} = e^t + e^{-t}$$

より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{e^t + e^{-t}}{e^t - e^{-t}} \quad (\text{答})$$

(4)

$$\frac{dx}{dt} = -2 \sin 2t, \frac{dy}{dt} = 3 \cos 3t$$

より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{3 \cos 3t}{-2 \sin 2t} = -\frac{3 \cos 3t}{2 \sin 2t} \quad (\text{答})$$

[2]

$$\frac{dx}{dt} = -3 \cos^2 t \sin t, \frac{dy}{dt} = 3 \sin^2 t \cos t$$

より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = -\frac{\sin^2 t \cos t}{\cos^2 t \sin t} = -\tan t$$

従って

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dx^2} &= \frac{d}{dx} \frac{dy}{dx} \\ &= \frac{d}{dt} \frac{dy}{dx} \cdot \frac{1}{\frac{dx}{dt}} \\ &= (-\tan t)' \cdot \frac{1}{-3 \cos^2 t \sin t} \\ &= \frac{1}{\cos^2 t} \cdot \frac{1}{3 \cos^2 t \sin t} \\ &= \frac{1}{3 \cos^4 t \sin t} \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

演習問題 11-2

次の問いに答えよ.

(1) 曲線

$$x = \theta - \sin \theta, \quad y = 1 - \cos \theta$$

の, $\theta = \frac{\pi}{3}$ に対応する点における接線の方程式を求めよ.

(2) 曲線 C 上の点は, 媒介変数 t を用いて

$$x = e^t \cos \pi t, \quad y = e^t \sin \pi t$$

と表される. $t = 2$ に対応する C 上の点における接線の方程式を求めよ.

解答・解説

(1) まず,

$$\frac{dx}{d\theta} = 1 - \cos \theta, \quad \frac{dy}{d\theta} = \sin \theta$$

であるから,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{d\theta}}{\frac{dx}{d\theta}} = \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta}.$$

よって $\theta = \frac{\pi}{3}$ における接線の傾きは $\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{\sqrt{3}}{2}}{1 - \frac{1}{2}} = \sqrt{3}$. またこのとき

$$x = \frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{2}, \quad y = 1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}.$$

であるから, 求める接線の方程式は

$$\begin{aligned} y - \frac{1}{2} &= \sqrt{3} \left\{ x - \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \right\} \\ \therefore y &= \sqrt{3}x - \frac{\sqrt{3}}{3}\pi + 2. \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned} \frac{dx}{dt} &= e^t \cos \pi t + e^t \cdot \pi \cdot (-\sin \pi t) = e^t (\cos \pi t - \pi \sin \pi t), \\ \frac{dy}{dt} &= e^t \sin \pi t + e^t \cdot \pi \cdot \cos \pi t = e^t (\sin \pi t + \pi \cos \pi t) \end{aligned}$$

であるから、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{dt}}{\frac{dx}{dt}} = \frac{\sin \pi t + \pi \cos \pi t}{\cos \pi t - \pi \sin \pi t}.$$

よって $t = 2$ における接線の傾きは $\frac{dy}{dx} = \frac{0 + \pi \cdot 1}{1 - \pi \cdot 0} = \pi$. またこのとき

$$x = e^2, \quad y = 0$$

であるから、求める接線の方程式は

$$\begin{aligned} y - 0 &= \pi(x - e^2) \\ \therefore y &= \pi x - \pi e^2. \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

演習問題 11-3

[1] 数直線上を動く点 P(x) の座標が、時刻 t により

$$x = -4t^2 + 3t + 10$$

で与えられるとする。3秒後の、点 P の速度、加速度をそれぞれ求めよ。

[2] xy 平面上の動点 P が、時刻 t により

$$x = -t^3, \quad y = t^3 - 3t^2$$

このとき、速度ベクトル \vec{v} 、加速度ベクトル $\vec{\alpha}$ を求めよ。また、 $t = 1$ のときの速さ、加速度の大きさをそれぞれ求めよ。

[3] xy 平面上の動点 P が、時刻 t により次のように与えられる。

$$x = 2 \sin t, \quad y = \cos 2t$$

このとき、点 P の速度の大きさの最大値はいくらか。

解答・解説

[1]

$$\frac{dx}{dt} = -8t + 3, \quad \frac{d^2x}{dt^2} = -8$$

ゆえに、 $t = 3$ では、点 P の速度 v 、加速度 α は

$$v = -8 \cdot 3 + 3 = -21, \quad \alpha = -8 \quad (\text{答})$$

[2]

$$\frac{dx}{dt} = -3t^2, \quad \frac{dy}{dt} = 3t^2 - 6t$$

また

$$\frac{d^2x}{dt^2} = -6t, \quad \frac{d^2y}{dt^2} = 6t - 6$$

ゆえに

$$\vec{v} = (-3t^2, 3t^2 - 6t), \quad \vec{\alpha} = (-6t, 6t - 6) \quad (\text{答})$$

また、 $t = 1$ のとき

$$\vec{v} = (-3, -3), \quad \vec{\alpha} = (-6, 0) \quad (\text{答})$$

[3]

$$\frac{dx}{dt} = 2 \cos t, \quad \frac{dy}{dt} = -2 \sin 2t$$

ゆえに

$$\vec{v} = (2 \cos t, -2 \sin 2t)$$

従って、速度の大きさは

$$\begin{aligned} |\vec{v}| &= \sqrt{(2 \cos t)^2 + (-2 \sin 2t)^2} \\ &= 2 \sqrt{\cos^2 t + \sin^2 2t} \\ &= 2 \sqrt{\cos^2 t + (2 \cos t \sin t)^2} \\ &= 2 |\cos t| \sqrt{1 + 4 \sin^2 t} \end{aligned}$$

ここで、 $\sin^2 t = u$ とする（ただし、 $0 \leq u \leq 1$ ）。

$$\begin{aligned} |\vec{v}|^2 &= 4(1-u)(1+4u) \\ &= -16u^2 + 12u + 4 \\ &= -16 \left(u - \frac{3}{8}\right)^2 + \frac{25}{4} \end{aligned}$$

ゆえに、 $u = \frac{3}{8}$ のとき、最大値は $\sqrt{\frac{25}{4}} = \frac{5}{2}$ (答)

演習問題 11 - 4

座標平面上を運動する点 P の時刻 t における座標を

$$x = e^t \cos t, y = e^t \sin t$$

とする。このとき、点 (x, y) の速度ベクトル $\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$ と定める。

次の問いに答えよ。

- (1) 時刻 t における速度 \vec{v} 、その大きさ $|\vec{v}|$ を求めよ。
- (2) 原点を O とするとき、 \vec{v} と \overrightarrow{OP} のなす角 θ は一定であることを示せ。また、 θ を求めよ。

解答・解説

- (1) それぞれ、 t で微分して

$$\begin{aligned}\frac{dx}{dt} &= e^t \cos t - e^t \sin t = e^t(\cos t - \sin t) \\ \frac{dy}{dt} &= e^t \sin t + e^t \cos t = e^t(\sin t + \cos t)\end{aligned}$$

ゆえに

$$\begin{aligned}\vec{v} &= (e^t(\cos t - \sin t), e^t(\sin t + \cos t)) \quad (\text{答}) \\ |\vec{v}| &= \sqrt{\{e^t(\cos t - \sin t)\}^2 + \{e^t(\sin t + \cos t)\}^2} \\ &= \sqrt{2e^{2t}} \\ &= \sqrt{2}e^t \quad (\text{答})\end{aligned}$$

- (2) 2 つのベクトルのなす角を θ とする。

$$\overrightarrow{OP} = (e^t \cos t, e^t \sin t)$$

したがって、 $\vec{v} \cdot \overrightarrow{OP} = |\vec{v}| |\overrightarrow{OP}| \cos \theta$ が成り立つことより

$$\begin{aligned}\cos \theta &= \frac{\vec{v} \cdot \overrightarrow{OP}}{|\vec{v}| |\overrightarrow{OP}|} = \frac{\cos^2 t + \sin^2 t}{\sqrt{2}} = \frac{1}{\sqrt{2}} \\ \therefore \theta &= \frac{\pi}{4}\end{aligned}$$

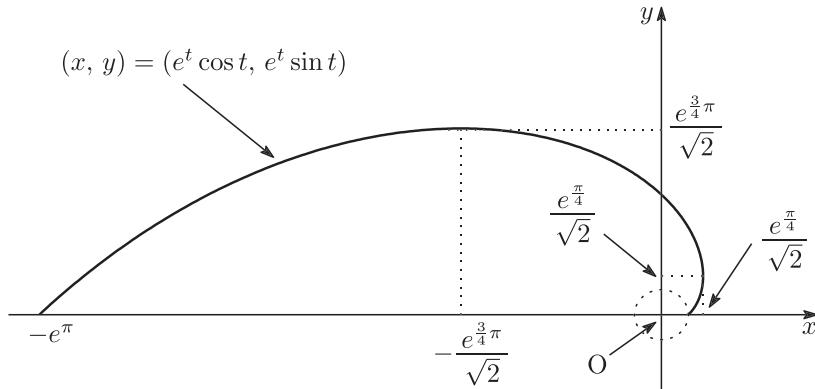
従って、2 つのベクトルのなす角は一定である。 [証明終]

注意 11.1

$0 \leq \theta \leq \pi$ のもとで、点 (x, y) の動きは次の通り。

θ	0	...	$\frac{\pi}{4}$...	$\frac{3}{4}\pi$...	π
$\frac{dx}{dt}$	+	+	0	-	-	-	-
$\frac{dy}{dt}$	+	+	+	+	0	-	-
(x, y)	$(1, 0)$	\nearrow	$\left(\frac{e^{\frac{\pi}{4}}}{\sqrt{2}}, \frac{e^{\frac{\pi}{4}}}{\sqrt{2}}\right)$	\nwarrow	$\left(-\frac{e^{\frac{3}{4}\pi}}{\sqrt{2}}, \frac{e^{\frac{3}{4}\pi}}{\sqrt{2}}\right)$	\swarrow	$(-e^\pi, 0)$

したがって、点 P の軌跡は次の通り。



演習問題 11-5

表面積が $4\pi \text{ cm}^2/\text{秒}$ の一定の割合で増加している球がある。半径が 10 cm になった瞬間において、以下のものを求めよ。

- (1) 半径の増加する速度
- (2) 体積の増加する速度

解答・解説

(1) 半径を r 、表面積を S とする。求める速度は $v = \frac{dr}{dt}$ である。 $S = 4\pi r^2$ なので

$$\frac{dS}{dt} = 8\pi r \frac{dr}{dt} \quad \therefore \quad \frac{dr}{dt} = \frac{1}{8\pi r} \cdot \frac{dS}{dt}$$

与えられた条件より、 $\frac{dS}{dt} = 4\pi$ 、 $r = 10$ なので

$$\frac{dr}{dt} = \frac{1}{8\pi \cdot 10} \cdot 4\pi = \frac{1}{20} \quad (\text{cm}^2/\text{秒}) \quad (\text{答})$$

(2) 体積を V とする。 $V = \frac{4}{3}\pi r^3$ から

$$\frac{dV}{dt} = 4\pi r^2 \frac{dr}{dt}$$

$r = 10$ のとき、(1) より $\frac{dr}{dt} = \frac{1}{20}$ 。すなわち

$$\frac{dV}{dt} = 4\pi \cdot 10^2 \cdot \frac{1}{20} = 20\pi \quad (\text{cm}^2/\text{秒}) \quad (\text{答})$$

演習問題 11 – 6

高さ 3m の高台の上からロープで、毎秒 2m の速度で床にある荷物を引き寄せる。ロープの長さが 5m になったときの床にある荷物の速度を求めよ。ただし、ロープは十分に長いものとし、荷物は床から離れていないものとする。

解答・解説

高台の下（地表）から荷物までの距離を x m、高台の上から荷物までの距離を y m とする。このとき、三平方の定理から

$$x^2 + 3^2 = y^2 \quad \cdots \textcircled{1}$$

辺々を t で微分する。

$$2x \frac{dx}{dt} = 2y \frac{dy}{dt} \quad \therefore \quad x \frac{dx}{dt} = y \frac{dy}{dt}$$

ここで、 $\frac{dy}{dt} = -2$ から

$$x \frac{dx}{dt} = -2y$$

① から、 $y = 5$ のとき $x = 4$. すなわち、これを代入して

$$4 \cdot \frac{dx}{dt} = -2 \cdot 5 \quad \therefore \quad \frac{dx}{dt} = -\frac{5}{2}$$

すなわち、荷物は高台に向かって 2.5(m/秒) で向かってくる。 (答)

添削課題 11 - 1

- 1 高さ 10 m から真上に物体 F を投げた。F の t 秒後の高さを x m とするとき

$$x = -5t^2 + 15t + 10$$

であるという。物体を投げてから 2 秒後の、点 P の速度、加速度をそれぞれ求めよ。

- 2 xy 平面上の動点 P が、時刻 t により

$$x = 2 \cos 3t, \quad y = 2 \sin 3t$$

と表される。このとき、速さ $|\vec{v}|$ 、加速度の大きさ $|\vec{\alpha}|$ を求めよ。また、速度ベクトルと加速度ベクトルは常に垂直であることを示せ。

解答・解説

- 1

$$\frac{dx}{dt} = -10t + 15, \quad \frac{d^2x}{dt^2} = -10$$

ゆえに、 $t = 2$ のとき、点 P の速度 v 、加速度 α は

$$v = -10 \cdot 2 + 15 = -5, \quad \alpha = -10 \quad (\text{答})$$

- 2

$$\frac{dx}{dt} = -6 \sin 3t, \quad \frac{dy}{dt} = 6 \cos 3t$$

また

$$\frac{d^2x}{dt^2} = -18 \cos 3t, \quad \frac{d^2y}{dt^2} = -18 \sin 3t$$

ゆえに

$$\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right) = (-6 \sin 3t, 6 \cos 3t),$$

$$|\vec{v}| = 6 \sqrt{(-\sin 3t)^2 + (\cos 3t)^2} = 6 \quad (\text{答})$$

$$\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right) = (-18 \cos 3t, -18 \sin 3t),$$

$$|\vec{\alpha}| = 18 \sqrt{(-\cos 3t)^2 + (-\sin 3t)^2} = 18 \quad (\text{答})$$

また, $\vec{v}, \vec{\alpha}$ は $\vec{0}$ でなく

$$\vec{v} \cdot \vec{\alpha} = 6 \cdot 18(-\sin 3t, \cos 3t) \cdot (-\cos 3t, -\sin 3t) = 0$$

より, \vec{v} と $\vec{\alpha}$ は垂直である. [証明終]

添削課題 11 - 2

xy 平面上を動く点 P の時刻 t における座標が

$$(x, y) = \left(\frac{e^t + e^{-t}}{2}, \frac{e^t - e^{-t}}{2} \right)$$

で与えられるとき

- (1) 時刻 t における速度ベクトル \vec{v} , 加速度ベクトル $\vec{\alpha}$ を求めよ.
- (2) 時刻 t における速度ベクトル \vec{v} , 加速度ベクトル $\vec{\alpha}$ のなす角を θ とするとき, $\cos \theta$ を t を用いて表せ.

解答・解説

(1)

$$\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right) = \left(\frac{e^t - e^{-t}}{2}, \frac{e^t + e^{-t}}{2} \right) \quad (\text{答})$$

また

$$\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right) = \left(\frac{e^t + e^{-t}}{2}, \frac{e^t - e^{-t}}{2} \right) \quad (\text{答})$$

(2)

$$\begin{aligned} \vec{v} \cdot \vec{\alpha} &= \frac{1}{4} (e^t - e^{-t}, e^t + e^{-t}) \cdot (e^t + e^{-t}, e^t - e^{-t}) \\ &= \frac{1}{4} \{(e^{2t} - e^{-2t}) + (e^{2t} - e^{-2t})\} \\ &= \frac{e^{2t} - e^{-2t}}{2} \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} |\vec{v}| = |\vec{\alpha}| &= \frac{1}{2} \sqrt{(e^t + e^{-t})^2 + (e^t - e^{-t})^2} \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}} \sqrt{e^{2t} + e^{-2t}} \end{aligned}$$

ゆえに, $\vec{v} \cdot \vec{\alpha} = |\vec{v}| |\vec{\alpha}| \cos \theta$ から

$$\begin{aligned} \frac{e^{2t} - e^{-2t}}{2} &= \frac{e^{2t} + e^{-2t}}{2} \cos \theta \\ \therefore \cos \theta &= \frac{e^{2t} - e^{-2t}}{e^{2t} + e^{-2t}} \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

Lecture 12 微分法(10) 曲線のパラメータ表示 - 解答

演習問題 12-1

[1] 次の問い合わせよ。

- (1) t は実数全体を動く。パラメータ表示 $x = 2t^2 + 1$, $y = t^2 + t - 2$ で表される曲線の概形を調べよ。
- (2) パラメータ表示 $x = t - t^2$, $y = t + t^2$ ($-1 \leq t \leq 1$) で表される曲線の概形を調べよ。

[2] t を変数として, xy 平面上で次のようにパラメータ表示された曲線 C がある。

$$x = -t^2 + 4, \quad y = t^3 - 3t + 2$$

- (1) この曲線は自分自身と交差することがあるか。あるならば、交差する点の座標を求めよ。
- (2) 曲線 C の概形を調べ、図示せよ。

解答・解説

[1]

- (1) x 軸との交点に対応する t の値は、 $y = 0$ より

$$(t+2)(t-1) = 0 \quad \therefore \quad t = -2, 1$$

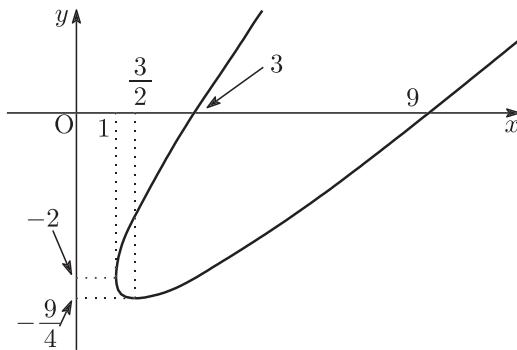
さらに

$$\frac{dx}{dt} = 4t, \quad \frac{dy}{dt} = 2t + 1$$

よって、点 (x, y) の動きは次の通り。

t	...	-2	...	$-\frac{1}{2}$...	0	...	1	...
$\frac{dx}{dt}$	-	-	-	-	-	0	+	+	+
$\frac{dy}{dt}$	-	-	-	0	+	+	+	+	+
(x, y)	↙	(9, 0)	↙	$\left(\frac{3}{2}, -\frac{9}{4}\right)$	↖	(1, -2)	↗	(3, 0)	↗

以上より、グラフの概形は次の通り。



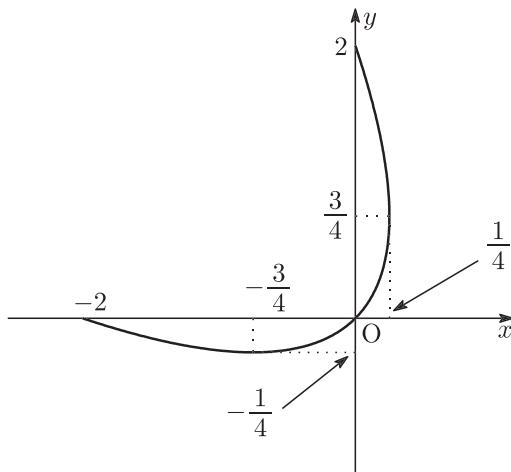
(2)

$$\frac{dx}{dt} = 1 - 2t, \quad \frac{dy}{dt} = 1 + 2t, \quad \frac{dy}{dx} = \frac{1+2t}{1-2t}$$

よって、 $-1 \leq t \leq 1$ のもとで、点 (x, y) の動きは次の通り。

t	-1	...	$-\frac{1}{2}$...	$\frac{1}{2}$...	1
$\frac{dx}{dt}$	+	+	+	+	0	-	-
$\frac{dy}{dt}$	-	-	0	+	+	+	+
(x, y)	(-2, 0)	↘	$\left(-\frac{3}{4}, -\frac{1}{4}\right)$	↗	$\left(\frac{1}{4}, \frac{3}{4}\right)$	↖	(0, 2)

また、 $t = 0$ のとき $(0, 0)$ を通ることに注意し、グラフの概形は次の通り。



[2]

(1) $t = u, v$ で同じ点を通るとする ($u \neq v$). このとき

$$-u^2 + 4 = -v^2 + 4 \quad \cdots \textcircled{1}, \quad u^3 - 3u + 2 = v^3 - 3v + 2 \quad \cdots \textcircled{2}$$

①より

$$(u+v)(u-v) = 0$$

$u \neq v$ より, $v = -u$. ②から, $u \neq 0$ に注意して

$$u^3 - 3u + 2 = (-u)^3 - 3(-u) + 2$$

$$u(u + \sqrt{3})(u - \sqrt{3}) = 0$$

$$u = \pm\sqrt{3}$$

ゆえに, $u = \pm\sqrt{3}$ で通る点 (1, 2) で自己交差する. (答)

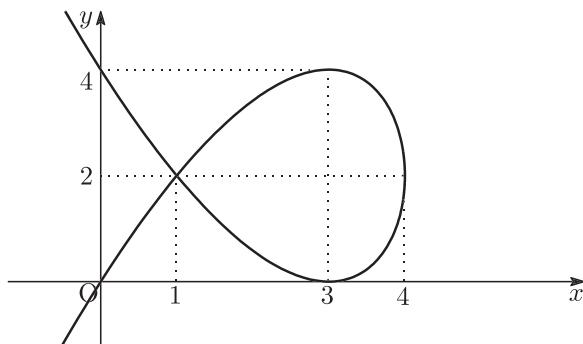
(2)

$$\frac{dx}{dt} = -2t, \quad \frac{dy}{dt} = 3t^2 - 3 = 3(t+1)(t-1)$$

よって, 点 (x, y) の動きは次の通り.

t	…	-1	…	0	…	1	…
$\frac{dx}{dt}$	+	+	+	0	-	-	-
$\frac{dy}{dt}$	+	0	-	-	-	0	+
(x, y)	↗	(3, 4)	↘	(4, 2)	↖	(3, 0)	↖

(1) とあわせて, グラフの概形は次の通り.

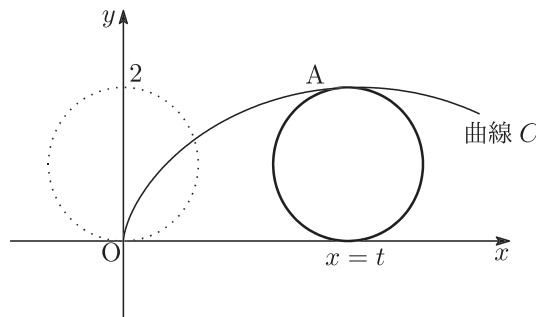


演習問題 12-2

半径 1 の円盤を原点で x 軸に接し、かつ中心が $(0, 1)$ となるように xy 平面上におく。この円盤を、 x 軸上を滑らないよう正方向に転がす。最初に原点と接していた円盤の周上の点を A とする。また、円盤と x 軸との接点 T の x 座標を t とする。

このとき、次の問い合わせに答えよ。

- (1) 点 A の座標を t を用いて表せ。また、A の軌跡を図示せよ。
- (2) (1) で求めた軌跡を C とする。 C 上の点 A における C の接線を L とする。 L と直線 AT は垂直に交わることを示せ。



解答・解説

- (1) 円盤の中心を B とすると、 $B(t, 1)$ と表される。ここで、 $\angle TBA = \theta$ とおくと、円盤の半径が 1 であることから

$$\theta = t$$

である。ゆえに

$$\overrightarrow{OA} = \overrightarrow{OB} + \overrightarrow{BA} = (t, 1) + \left(\cos\left(\frac{3}{2}\pi - t\right), \sin\left(\frac{3}{2}\pi - t\right) \right) = (t - \sin t, 1 - \cos t)$$

ゆえに、A の座標は $(t - \sin t, 1 - \cos t)$ (答)

ここで

$$x = f(t) = t - \sin t, \quad y = g(t) = 1 - \cos t$$

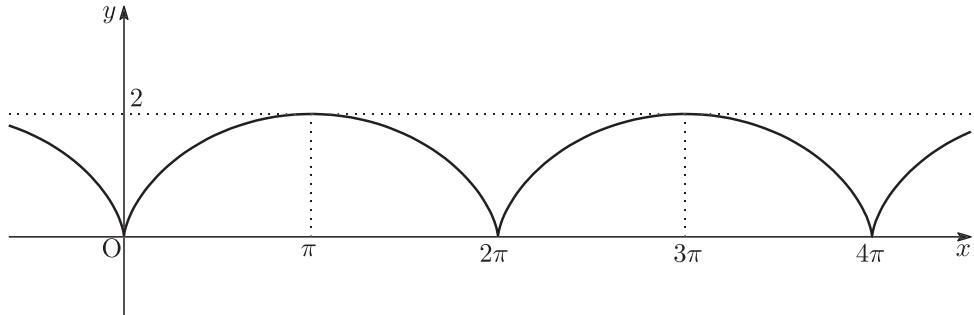
とする。以下、 $0 \leq t \leq 2\pi$ について調べる。

$$\frac{dx}{dt} = 1 - \cos t \geq 0, \quad \frac{dy}{dt} = \sin t$$

よって、 $0 \leq t \leq 2\pi$ のもとで、点 A(x, y) の動きは次の通り。

t	0	\cdots	π	\cdots	2π
$\frac{dx}{dt}$	0	+	+	+	0
$\frac{dy}{dt}$	+	+	0	-	-
(x, y)	(0, 0)	\nearrow	($\pi, 2$)	\searrow	($2\pi, 0$)

周期性に注意して、点 P の軌跡は次の通り。



- (2) 点 A の速度ベクトルを $\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$ と定める。

$$\vec{v} = (1 - \cos t, \sin t)$$

ここで

$$\overrightarrow{TA} = (t - \sin t, 1 - \cos t) - (t, 0) = (-\sin t, 1 - \cos t)$$

ゆえに

$$\vec{v} \cdot \overrightarrow{TA} = (1 - \cos t) \cdot (-\sin t) + \sin t \cdot (1 - \cos t) = 0$$

従って、2つのベクトルは直交する。 [証明終]

演習問題 12-3

xy 平面上の動点 P は、実数全体を動くパラメータ t により

$$x = \cos \pi t, \quad y = \sin 2\pi t$$

と表される。 P の軌跡の概形を描け。

解答・解説

$$x = f(t), \quad y = g(t)$$

とおく。 $f(t)$ の周期は 2, $g(t)$ の周期は 1 であることから、 $0 \leq t \leq 2$ について調べる。また、

$$\begin{aligned} f(2-t) &= \cos \{\pi(2-t)\} = \cos(2\pi - \pi t) = \cos \pi t = f(t) \\ g(2-t) &= \sin \{2\pi(2-t)\} = \sin(4\pi - 2\pi t) = -\sin 2\pi t = -g(t) \end{aligned}$$

である。ゆえに、 $0 \leq t \leq 1$ について調べれば十分。

$$\frac{dx}{dt} = -\pi \sin \pi t \leq 0, \quad \frac{dy}{dt} = 2\pi \cos 2\pi t$$

よって、点 (x, y) の動きは次の通り。

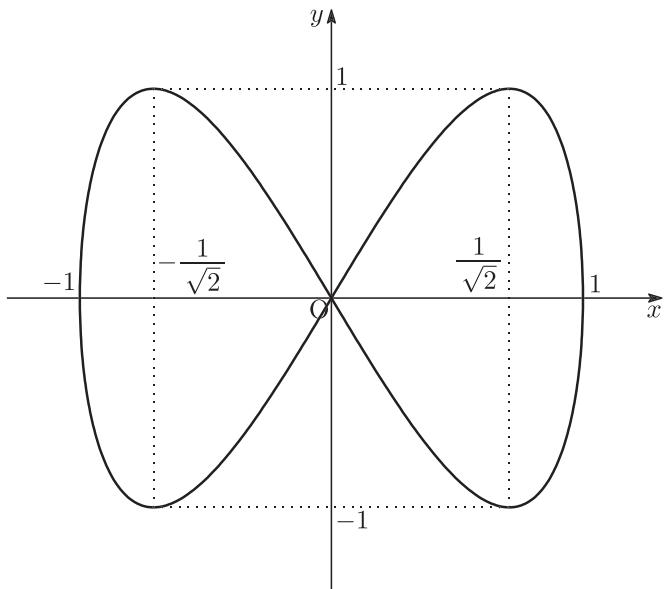
t	0	\dots	$\frac{1}{4}$	\dots	$\frac{3}{4}$	\dots	1
$\frac{dx}{dt}$	0	-	-	-	-	-	0
$\frac{dy}{dt}$	+	+	0	-	0	+	+
(x, y)	(1, 0)	↖	$\left(\frac{1}{\sqrt{2}}, 1\right)$	↙	$\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, -1\right)$	↖	(-1, 0)

また

$$f(2-t) = f(t), g(2-t) = -g(t)$$

であることから、曲線 C のうち、区間 $0 \leq t \leq 1$ に対応する部分と $1 \leq t \leq 2$ に対応する部分は x 軸について対称。

以上より、グラフの概形は次の通り。



演習問題 12-4

パラメータ θ により、点 $P(x, y)$ は

$$x = (1 + \cos \theta) \cos \theta, \quad y = (1 + \cos \theta) \sin \theta \quad (0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

と表される。P の軌跡を xy 平面上に図示せよ。

解答・解説

$$f(\theta) = (1 + \cos \theta) \cos \theta, \quad g(\theta) = (1 + \cos \theta) \sin \theta \quad (0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

とする。

$$f(2\pi - \theta) = (1 + \cos(2\pi - \theta)) \cos(2\pi - \theta) = (1 + \cos \theta) \cos \theta = f(\theta)$$

$$g(2\pi - \theta) = (1 + \cos(2\pi - \theta)) \sin(2\pi - \theta) = -(1 + \cos \theta) \sin \theta = -g(\theta)$$

ゆえに、 $0 \leq \theta \leq \pi$ で検討すれば十分である。

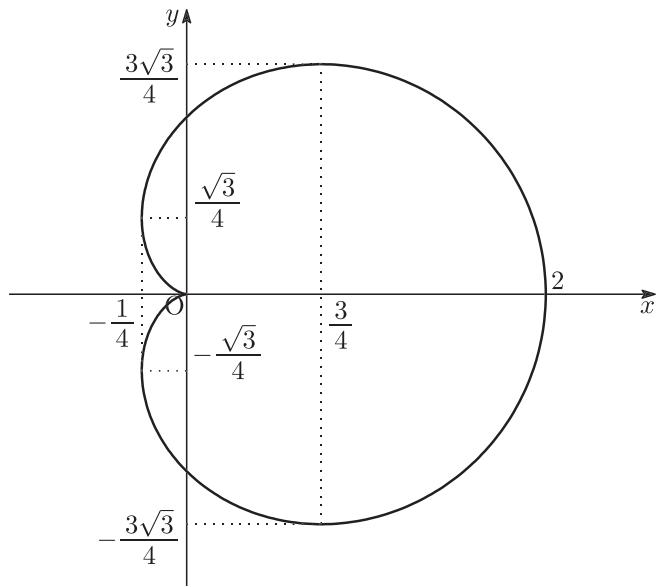
$$\frac{df(\theta)}{d\theta} = -\sin \theta \cos \theta + (1 + \cos \theta)(-\sin \theta) = -\sin \theta(2 \cos \theta + 1)$$

$$\frac{dg(\theta)}{d\theta} = -\sin \theta \sin \theta + (1 + \cos \theta) \cos \theta = (2 \cos \theta - 1)(\cos \theta + 1)$$

よって、 $0 \leq \theta \leq \pi$ のもとで、点 (x, y) の動きは次の通り。

θ	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	$\frac{2}{3}\pi$...	π
$f'(\theta)$	-	-	-	-	0	+	+
$g'(\theta)$	+	+	0	-	-	-	-
(x, y)	(2, 0)	↖	$\left(\frac{3}{4}, \frac{3\sqrt{3}}{4}\right)$	↙	$\left(-\frac{1}{4}, \frac{\sqrt{3}}{4}\right)$	↘	(0, 0)

また、 x 軸との対称性に注意すると、グラフの概形は次の通り。



添削課題 12-1

次のようにパラメータ表示された曲線の概形を、 xy 平面上に描け。

$$(1) \quad x = 2t^2, \quad y = t^3 - 3t \quad (-\sqrt{3} \leq t \leq \sqrt{3})$$

$$(2) \quad x = t^3 - t, \quad y = t^3 + t$$

解答・解説

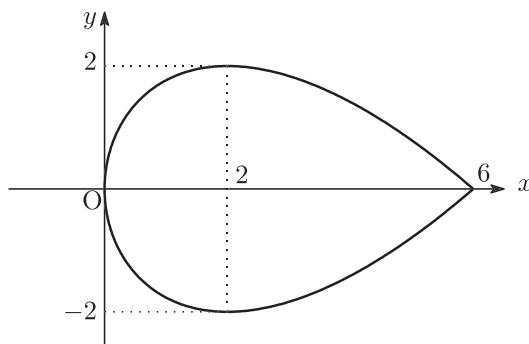
(1)

$$\frac{dx}{dt} = 4t, \quad \frac{dy}{dt} = 3t^2 - 3 = 3(t+1)(t-1)$$

よって、点 (x, y) の動きは次の通り。

t	$-\sqrt{3}$	…	-1	…	0	…	1	…	$\sqrt{3}$
$\frac{dx}{dt}$	-	-	-	-	0	+	+	+	+
$\frac{dy}{dt}$	+	+	0	-	-	-	0	+	+
(x, y)	(6, 0)	↖	(2, 2)	↙	(0, 0)	↘	(2, -2)	↗	(6, 0)

以上より、グラフの概形は次の通り。



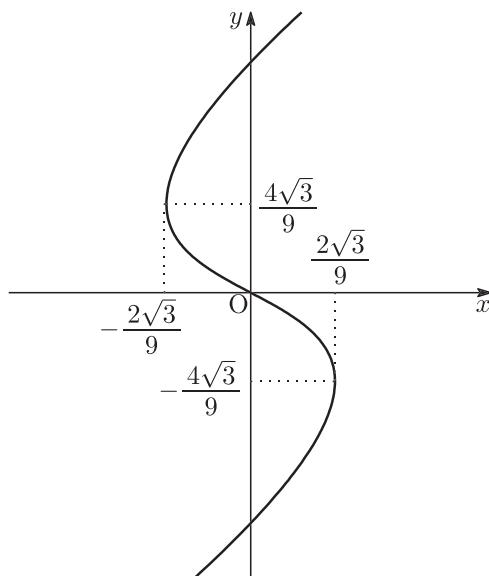
(2)

$$\frac{dx}{dt} = 3t^2 - 1 = 3 \left(t - \frac{1}{\sqrt{3}} \right) \left(t + \frac{1}{\sqrt{3}} \right), \quad \frac{dy}{dt} = 3t^2 + 1 > 0$$

よって、点 (x, y) の動きは次の通り。

t	…	$-\frac{1}{\sqrt{3}}$	…	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	…
$\frac{dx}{dt}$	+	0	-	0	+
$\frac{dy}{dt}$	+	+	+	+	+
(x, y)	↗	$\left(\frac{2\sqrt{3}}{9}, -\frac{4\sqrt{3}}{9}\right)$	↖	$\left(-\frac{2\sqrt{3}}{9}, \frac{4\sqrt{3}}{9}\right)$	↗

また、 $t = 0$ のとき $(0, 0)$ を通ることに注意し、グラフの概形は次の通り。



添削課題 12-2

xy 平面上の動点 $P(x, y)$ は、 $0 \leqq t \leqq \pi$ を動くパラメータ t により

$$x = \cos 3t, \quad y = 2 \sin 2t$$

と表される。 P の軌跡の概形を描け。

解答・解説

$(x, y) = (f(t), g(t))$ とする。このとき

$$f(\pi - t) = \cos 3(\pi - t) = \cos(3\pi - 3t) = -\cos(-3t) = -\cos 3t = -f(t)$$

$$g(\pi - t) = 2 \sin 2(\pi - t) = 2 \sin(2\pi - 2t) = 2 \sin(-2t) = -2 \sin 2t = -g(t)$$

すなわち、図示する曲線のうち、 $0 \leqq t \leqq \frac{\pi}{2}$ の部分と $\frac{\pi}{2} \leqq t \leqq \pi$ の部分は原点で対称である。

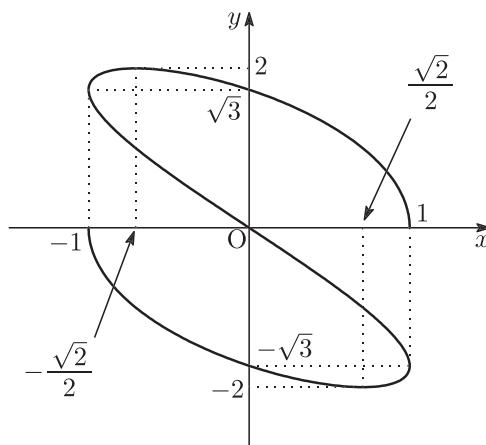
ゆえに、 $0 \leqq t \leqq \frac{\pi}{2}$ について調べれば十分。

$$\frac{dx}{dt} = -3 \sin 3t, \quad \frac{dy}{dt} = 4 \cos 2t$$

よって、点 (x, y) の動きは次の通り。

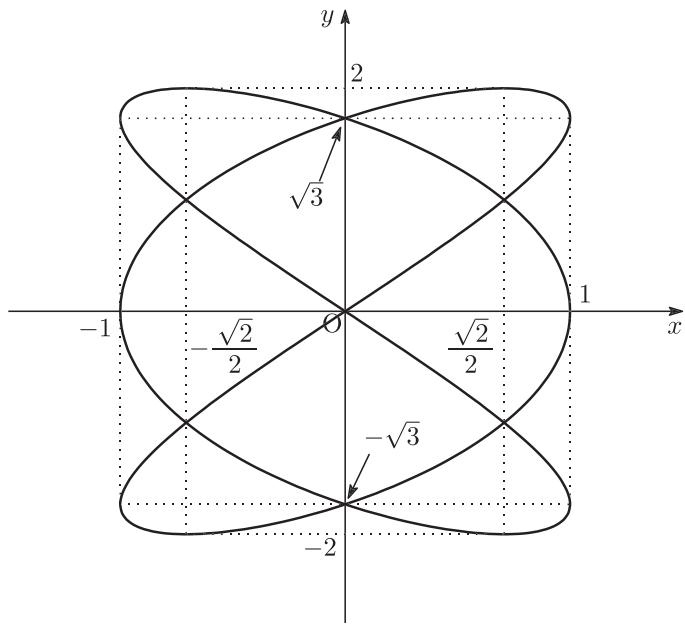
t	0	...	$\frac{\pi}{4}$...	$\frac{\pi}{3}$...	$\frac{\pi}{2}$
$\frac{dx}{dt}$	0	-	-	-	0	+	+
$\frac{dy}{dt}$	+	+	0	-	-	-	-
(x, y)	(1, 0)	↖	$\left(-\frac{\sqrt{2}}{2}, 2\right)$	↙	$(-1, \sqrt{3})$	↘	(0, 0)

以上より、グラフの概形は次の通り。



注意 12.1

$0 \leq t \leq \pi$ と $\pi \leq t \leq 2\pi$ では x 軸に対称なので（確認せよ）， $0 \leq t \leq 2\pi$ でこの曲線を描くと，下図。



Lecture 13 総合演習 - 解答

演習問題 13-1

$r \neq -1$ とする。極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r^{2n+1}}{(1 + r^n)^2}$ を求めよ。

解答・解説

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r^{2n+1}}{(1 + r^n)^2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r \cdot r^{2n}}{(1 + r^n)^2}$$

(a) $-1 < r < 1$ のとき

$r^n \rightarrow 0$ であることから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r^{2n+1}}{(1 + r^n)^2} = \frac{1}{1} = 1.$$

(b) $r = 1$ のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r^{2n+1}}{(1 + r^n)^2} = \frac{1 - 1}{(1 + 1)^2} = 0.$$

(c) $r < -1, r < 1$ のとき $\frac{1}{r^n} \rightarrow 0$ であることから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1 - r \cdot r^{2n}}{(1 + r^n)^2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\left(\frac{1}{r^n}\right)^2 - r}{\left(\frac{1}{r^n} + 1\right)^2} = \frac{0 - r}{(0 + 1)^2} = -r.$$

演習問題 13-2

1 辺の長さが 1 の正方形 A_1 がある。 A_1 の各辺を、時計回りにそれぞれ $a : (1-a)$ (ただし、 $0 < a < 1$) に内分する点を結んでできる正方形を A_2 とする。同様の手続きで、正方形 A_k から A_{k+1} を作る ($k = 1, 2, 3, \dots$)。正方形 A_k の面積を S_k とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) S_2 を a の式で表せ。
- (2) S_k を a, k の式で表せ。
- (3) $\sum_{k=1}^{\infty} S_k$ が収束することを示し、その和 S を a の式で表せ。
- (4) S を最小にする a を求めよ。

解答・解説

以下、正方形 A_k の一边の長さを x_k とする。

- (1) 三平方の定理より

$$x_2 = \sqrt{a^2 + (1-a)^2} = \sqrt{2a^2 - 2a + 1} \quad \therefore \quad S_2 = 2a^2 - 2a + 1 \quad (\text{答})$$

- (2) 同様に

$$x_{k+1} = \sqrt{(ax_k)^2 + \{(1-a)x_k\}^2} = \sqrt{2a^2 - 2a + 1}x_k$$

ゆえに

$$S_{k+1} = (2a^2 - 2a + 1)S_k$$

すなわち、数列 $\{S_k\}$ は初項 1,

$$S_k = (2a^2 - 2a + 1)^{k-1} \quad (\text{答})$$

- (3) $\sum_{n=1}^{\infty}$ は初項 1、公比 $r = 2a^2 - 2a + 1$ の無限等比級数。ここで

$$r = 2a^2 - 2a + 1 = 2 \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{1}{2}$$

であり、 $0 < a < 1$ から $\frac{1}{2} \leqq r < 1$ 。すなわち、この無限等比級数は収束する。和を S とすれば

$$S = \frac{1}{1-r} = \frac{1}{1-(2a^2 - 2a + 1)} = \frac{1}{2a(1-a)} \quad (\text{答})$$

(4) S の分母が最大のとき, S は最小.

$$2a - 2a^2 = -2 \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{1}{2}$$

ゆえに, $a = \frac{1}{2}$ で最小. (答)

演習問題 13-3

2 曲線 $y = e^x$, $y = \log x + 2$ の両方に接する接線の方程式を求めよ.

解答・解説

曲線 $y = e^x$ 上の点 (s, e^s) における接線の方程式は

$$y - e^s = e^s(x - s) \quad y = e^s x + (1 - s)e^s \quad \cdots (\sharp)$$

また、曲線 $y = \log x + 2$ 上の点 $(t, \log t + 2)$ における接線の方程式は

$$y - (\log t + 2) = \frac{1}{t}(x - t) \quad y = \frac{1}{t}x + \log t + 1 \quad \cdots (\sharp\sharp)$$

(\sharp) , $(\sharp\sharp)$ が一致するのは

$$e^s = \frac{1}{t} \quad \cdots (*), \quad (1 - s)e^s = \log t + 1 \quad \cdots (**)$$

が成り立つとき. $(*)$ より, $t = e^{-s}$ なので, $(**)$ より

$$(1 - s)e^s = \log e^{-s} + 1$$

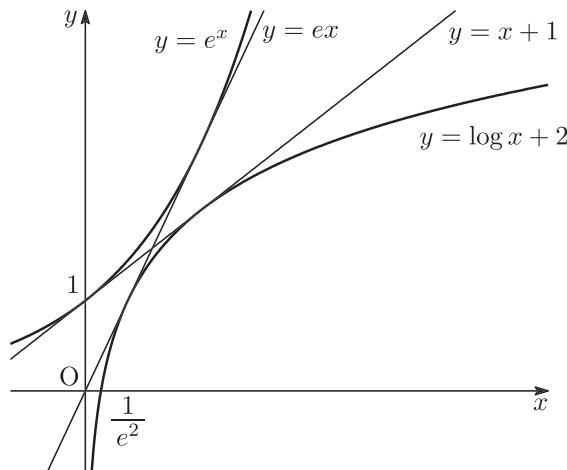
$$(1 - s)e^s = 1 - s$$

$$(1 - s)(e^s - 1) = 0$$

$$s = 0, 1$$

従って、 (\sharp) より、求める接線は

$$y = x + 1, y = ex \quad (\text{答})$$



演習問題 13-4

関数 $f(x) = \frac{x^3}{x^2 - 2}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) 関数 $f(x)$ が奇関数であることを証明せよ。
- (2) $y = f(x)$ の増減、凹凸、漸近線を調べ、そのグラフを xy 平面上に図示せよ。

解答・解説

(1)

$$f(-x) = \frac{(-x)^3}{(-x)^2 - 2} = \frac{-x^3}{x^2 - 2} = -f(x)$$

ゆえに、 $f(x)$ は奇関数である。 [証明終]

(2) (1) より、この曲線は原点対称である。以下、 $x \geq 0$ について調べる。

定義域は、 $x = \sqrt{2}$ を除く実数全体。

$$\begin{aligned} f(x) &= \frac{x(x^2 - 2) + 2x}{x^2 - 2} = x + \frac{2x}{x^2 - 2} \\ f'(x) &= 1 + 2 \cdot \frac{1 \cdot (x^2 - 2) - x \cdot 2x}{(x^2 - 2)^2} = \frac{x^4 - 6x^2}{(x^2 - 2)^2} = \frac{x^2(x^2 - 6)}{(x^2 - 2)^2} \\ f''(x) &= \frac{(4x^3 - 12x)(x^2 - 2)^2 - (x^4 - 6x^2) \cdot 2(x^2 - 2) \cdot 2x}{(x^2 - 2)^4} \\ &= 4 \cdot \frac{(x^3 - 3x)(x^2 - 2) - x(x^4 - 6x^2)}{(x^2 - 2)^3} \\ &= 4 \cdot \frac{x(x^2 + 6)}{(x^2 - 2)^3} \end{aligned}$$

従って、増減、凹凸は次の通り。

x	0	\cdots	$\sqrt{2}$	\cdots	$\sqrt{6}$	\cdots
$f'(x)$	0	-	\times	-	0	+
$f''(x)$	0	-	\times	+	+	+
$f(x)$	0	↘	\times	↘	$\frac{3\sqrt{6}}{2}$	↗

また

$$\lim_{x \rightarrow +\infty} f(x) = +\infty$$

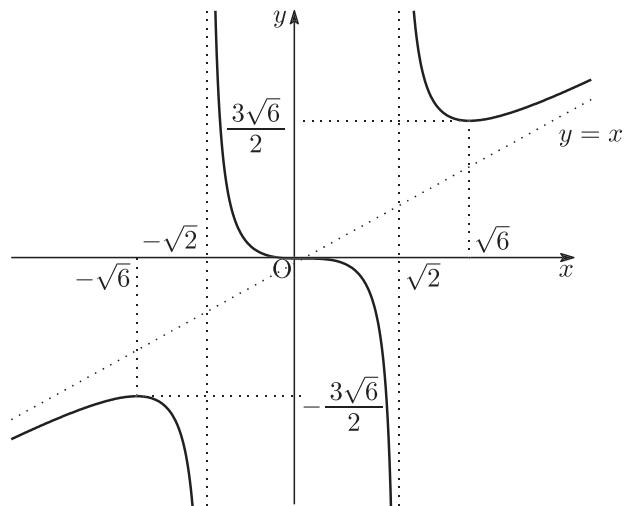
であり

$$\lim_{x \rightarrow \sqrt{2}+0} f(x) = +\infty, \quad \lim_{x \rightarrow \sqrt{2}-0} f(x) = -\infty$$

$$\lim_{x \rightarrow \pm\infty} \{f(x) - x\} = 0$$

より, $x = \sqrt{2}$, $x = -\sqrt{2}$, $y = x$ はこの曲線の漸近線である.

y 軸での対称であることとあわせ, $y = f(x)$ のグラフの概形は下図の通り.



演習問題 13-5

k を定数とするとき、方程式 $x^2e^x - k = 0$ の異なる実数解の個数を求めよ。ただし、 $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^2}{e^x} = 0$ は証明せずに用いてよい。

解答・解説

与式を変形して

$$x^2e^x = k$$

したがって、与方程式の実数解は曲線 $y = f(x) = x^2e^x$ と直線 $y = k$ の交点の x 座標に等しいから、これらの交点の個数を求める。

$$\begin{aligned}f'(x) &= 2xe^x + x^2e^x \\&= x(x+2)e^x\end{aligned}$$

より、 $f(x)$ の増減表は右のようになる。次に、

x	...	-2	...	0	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$\frac{4}{e^2}$	↘	0	↗

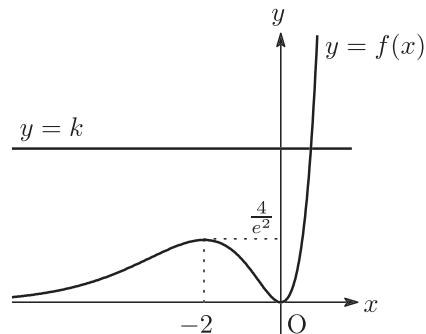
$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$$

また、 $x = -t$ とおくと

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = \lim_{t \rightarrow \infty} (-t)^2 e^{-t} = \lim_{t \rightarrow \infty} \frac{t^2}{e^t} = 0$$

以上より、 $y = f(x)$ のグラフは図のようになる。これより、求める実数解の個数は

$$\left\{ \begin{array}{ll} k < 0 \text{ のとき,} & 0 \text{ 個} \\ k = 0, \frac{4}{e^2} < k \text{ のとき,} & 1 \text{ 個} \\ k = \frac{4}{e^2} \text{ のとき,} & 2 \text{ 個} \\ 0 < k < \frac{4}{e^2} \text{ のとき,} & 3 \text{ 個} \end{array} \right.$$



演習問題 13-6

次の問い合わせよ.

- (1) $f(x) = \frac{\log x}{x}$ に対して, 曲線 $y = f(x)$ のグラフの概形を描け.
 (2) 2 数 59^{61} , 61^{59} の大小を比較せよ.

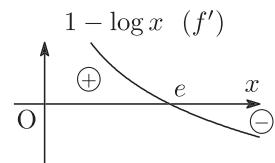
解答・解説

- (1) $f(x) = \frac{\log x}{x} (x > 0)$ を x で微分すると

$$f'(x) = \frac{\frac{1}{x} \cdot x - \log x \cdot 1}{x^2} = \frac{1 - \log x}{x^2}.$$

$f'(x)$ と $1 - \log x$ の符号が一致するから, 右図と

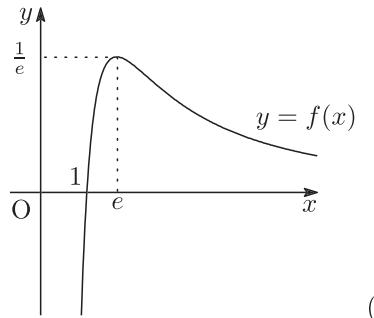
$$f'(e) = \frac{1}{e}, \quad \lim_{x \rightarrow +0} f'(x) = -\infty, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} f'(x) = 0$$



より $f(x)$ の増減は, 下表のようになる.

x	(0)	…	e	…	(+∞)
f'	+	0	-		
f	(-∞)	↗	$\frac{1}{e}$	↘	(0)

よって $y = f(x)$ のグラフは次のようにある.



(答)

- (2) (1) の結果より, $f(x)$ は $x \geq e$ で単調に減少する. $59 < 61$ より, $f(59) > f(61)$. すなわち

$$\begin{aligned} \frac{\log 59}{59} > \frac{\log 61}{61} &\iff 61 \log 59 > 59 \log 61 \\ &\iff \log 59^{61} > \log 61^{59} \\ &\iff 59^{61} > 61^{59}. \end{aligned} \quad (\text{答})$$

M2JD
高2東大理系数学Ⅲ



会員番号	
------	--

氏名	
----	--